

コロナに「倍返しだ！」

今年に入って胸の痛む話ばかりです。コロナ禍にあっては、オリンピックを皮切りに、あらゆるイベントはすべて自粛。人の動きは制限され自営業をされているあらゆるサービス業が大小の差はありますが経営のピンチに立たされています。大手会社は中高年の早期退職を募り、不採算チェーン店を次々閉鎖されています。来年卒業の学生たちの就職前線はかなりの苦戦を強いてるはずで

す。追い打ちをかけるように「令和2年7月豪雨」で九州地区をはじめとして、河川が氾濫し多くの高齢者や障がいのある方などの犠牲者を出し多くの方々が住む場所が奪われました。

このダブルパンチによって、「生きていく希望」を失ってしまっている方が多くいらっしゃるのではないかと考えています。特に社会的に弱い立場に立たされている方々に顕著に影響がでてるのではないのでしょうか。

また、障がい者施設「やまゆり学園」の殺人事件が頭をよぎるALS患者の医師による殺人幫助事件。「生きている意味がない」「周りに迷惑をかける」と考えさせたのは何が原因なのでしょう

か。「社会の中心にある「合理」「効率」「成果」「成長」などの経済中心主義やすべての責任を個人に押しつける「自己責任論」など背後にある「見えない社会的価値基準」があるように思います。



さて、高視聴率を上げている半沢直樹のドラマでの、おなじみのフレーズは「倍返しだ！」です。

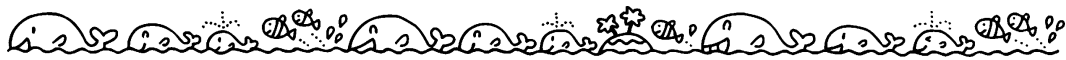
大銀行本社から証券会社に左遷された上、その証券会社でも大きな取引を横取りされ、その責任を押し付けられ、さらに島流しされるピンチに陥りますが、本社の重役が自己の利益、地位、名誉を追いかけるのと逆に、証券会社の使命は取引先の経営、そして社会に寄与することだと言い切り、部長としての正義を貫こうとします。まさに勧善懲悪の世界に正義貫こうとする痛快なドラマです。

私も影響されてコロナや災害、生きづらい社会に、どうしたら倍返しできるか考えてみました。

よくよく考えてみると実は、倍返しする相手はコロナでも災害でもなく。社会や人の持つ価値ではないかということです。すなわち自己の「利益」「欲望」「偏見」「不寛容」「無関心」「傲慢」などの罪なのではないかと思うのです。世間でいう「新しい生活スタイル」が必要なのではなく「新しい価値観」の組み立て直しこそが倍返しではないかと。

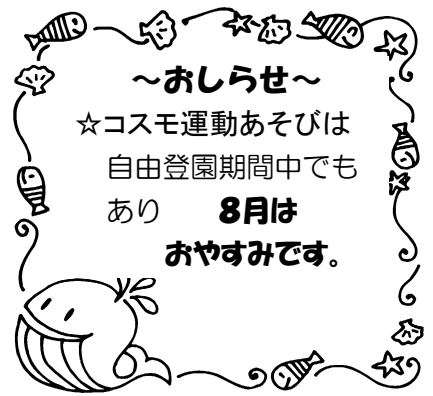
保育園での倍返しは、こんな状況下にあっても「楽しい水遊び」「わくわくするキャンプ」毎日の遊びから生まれる「子たちの笑顔」です。また、危機における「職員の結束」です。こんな時だからこそ、「子どもの最善の利益」を考えていてくれる保育士です。

苦しんでいる方々にこころの余裕をもつことなどできないかもしれませんが、しかし、だからこそ、これまでの生き方や考え方を振り返るチャンスだと思うのです。今まで、価値がないと思っていたことや私たちの生きる意味を問い直し、人間の傲慢さを反省したとき、そこには、「私たちは支え合いながらしか生きていけない弱い存在であり、違いはあっても、それぞれに生きる意味があり、人生はつらいことは多いけれども、それは不幸ではなく喜びの準備だ」と考えることができれば、それはきっと人生の「倍返し」になるはずで



8月の行事予定

- 毎週金曜日 幼児礼拝
- 10日(日) 山の日・休園
- 13日(木)
- 14日(金) } **全園児お弁当日**
- 15日(土) } ※痛まないように工夫してご準備ください。
- 27日(木) 主食代・副食代等 口座振替日です。
- 28日(金) 誕生祝福・誕生会
- 31日(月) 避難訓練(火災)



【9月の予告】

- 25日(金) 運動会予行練習 9:30～ 運動会は10月3日(土)です

保育園のいろんなところで使います 再利用にご協力をお願いします！

- ご不要のスーパーの袋
汚れ物入れ、ごみ袋として使います。
- 古着のTシャツ(サイズはフリー大人用もOK)
まだ着られる物は貸し出し用やバザーに、
着古した物はポロ布として使います。
- 古タオルやバスタオル・タオルケットなど
足ふきマット・雑巾として使います。

家族と過ごすゆったりとした時間

お父さん・お母さんがお休みの日に、一緒にお休みして家族で触れ合うひとときやゆっぴりのんびりと過ごす時間は 子ども達にとっては、心の栄養となり嬉しい充電タイムとなることでしょう。



みどり野保育園では「絵本の読み聞かせ」を大事にしています。

絵本大好きな子どもを育てる場として、保育園での日々の生活の中でも「絵本を読み聞かせる」ことを取り入れています。絵本の読み聞かせを通して美しいことば・心の安定・集中力・想像力・豊かな人間関係など、子どもが成長していく上で、とても大切な力を育むことが出来ると思います。

絵本を読んでもらうことで、乳児は簡単な言葉の繰り返しを楽しんだり、言葉を覚えるきっかけになったり、幼児は絵本に親しむと共に、言葉のやり取りを通して身近な人と気持ちを通わせたり語彙が豊かになるとも言われています。

保育園ではご承知のように、玄関の一角で「絵本の貸し出しコーナー」を設け、毎月保育士が乳児用と幼児用の絵本を選んで貸し出しを行っています。ご利用いただけると嬉しく思います。

絵本の読み聞かせは、親子のコミュニケーション作りに最適です。絵本を読む声は子どもに安心感を与えますし、肌の温もりや匂いを感じることで親子の親密感が高まり、信頼関係が強くなり、愛情を感じ自己肯定感も養われることでしょう。絵本を通して喜怒哀楽を感じ、心の変化を知り、感情豊かになり、心を育てたり、想像力も育っていきます。

子どもが喜ぶ読み聞かせの5つのポイント 1. 親も楽しみながら読む 2. 絵本を読むことに集中する 3. 子どもの反応を見ながら読む 4. 絵本に合わせて読み方に变化をつける…ほんの少しの工夫で子どもが絵本の世界に引き込まれて行きます 5. 親は絵本の感想や解説は控える 子どもが「絵本借りたい」「これ読んで欲しい」と言って来た時がチャンスです！！

どうぞ、親子の絵本タイムをお楽しみください。

主任保育士 杉原圭美